

ICCAE



名古屋大学 農学国際教育協力研究センター ニュース

平成17年9月30日発行 第7巻 第1号(年2回発行;通巻11号)

発行/名古屋大学 農学国際教育協力研究センター
〒464-8601 名古屋市千種区不老町

TEL 052-789-4225(受付) FAX 052-789-4222

<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp/~iccae/index.html>

e-mail:iccae@agr.nagoya-u.ac.jp

日米大学間 対話セミナー開催のお知らせ

— 参加歓迎 —

2005年10月31日(月)～11月2日(水)
於：名古屋大学野依記念学術交流館

ICCAEは、開発途上国の農学分野の国際協力に携わる日米大学間対話セミナーを、本年10月31日(月)から11月2日(水)名古屋大学野依記念学術交流館において開催します。本セミナーでは途上国、特にアジアとアフリカにおいて生活の最も基本である農業と農学の開発協力分野で、両国の協力活動が相乗効果を発揮できるよう、連携の可能性と強化について話し合います。

両国の高等教育・研究機関、援助機関には、途上国の農業開発や農学教育を通しての人づくり支援に関して多くの経験と教訓が蓄積されていますが、これまで両国間において、これらの経験と教訓の組織的な交流は行なわれて来ませんでした。本セミナーでは両国それぞれ10大学と米国のUSAID、ALO、日本のJICA、JBICなどの代表が、経験を交換し、討議を通して連携の可能性を探求します。皆様のご参加を歓迎します。詳しくは本センターのホームページをご覧ください。

ミシガン州立大学訪問

竹谷センター長と松本教授は、2005年3月「発展途上国の人作り戦略構築」の研究分野で優れた業績をあげているミシガン州立大学を訪問しました。

国際農業研究所のクレイ所長は、「ルワンダ農業強化連帯連携プロジェクト」(PEARL)に取り組み、内戦で疲弊したルワンダで、2001年から農家を組織して、品質管理とマーケティングで高品質のコーヒー輸出に成功し、国の立て直しに貢献したことを話しました。

農業経済のウェーバー教授とボートン助教授は途上国の人づくりのためには関係国において様々な方法で質の良い研修対象者を探し出すことが重要であることを強調しました。そのための資金は、USAIDや連邦政府、ロックフェラー財団など多様なところから確保するよう心がけていました。教育・研究はミシガン州立大学で1年、もう1年は留学生の出身国で行なう方式をとっています。彼らはまた、大変な労力をかけアフリカに関する政策や研究をデータベース化して、容易に検索出来るようしていました。

圧巻は国際開発課のサポート・システムです。世界中の外部資金情報をリスト化し、大画面PCで簡単に検索できるよう編集していました。日本の機関の資金情報も検索しています。所属職員は仕事に精通しており、情報を見てある教員の研究範囲内とみると、応募書類の大部分を作成し、応募課題の該当教員は専門部分だけ、せいぜいレターサイズ2枚を担当するのみとのことでした。その代わりオーバーヘッドは大きく、士気も極めて高く、仕事に誇りを持っていました。職員が教員の研究内容を把握して初めて出来るシステムであり、我が国の大学でここまで出来るようになるのには何年かかるかと考えると気が遠くなる思いでした。(平成16年度総長裁量経費)



ミシガン州立大学農学部